

● 日本型教育の海外展開(EDU-Port ニッポン)
令和 7 年度 応援プロジェクト申請書

申請者	機関名	
	代表者役職名・氏名(ふりがな)	
	郵便番号	
	所在地	
	HP	
連絡担当窓口	氏名(ふりがな)	
	所属部署・役職名	
	郵便番号	
	所在地	
	電話番号	
	E-mail	

1. 申請カテゴリ

(学校段階) 最も該当する一項目に☑☐ 幼児教育☒ 初等中等教育☐ 高等教育・職業教育☐ 社会教育☐ 教師教育☐ その他(自由記入)(テーマ) 最も該当する一項目に☑☐ 理数教育・工学教育☐ 外国語教育☐ 国際理解教育☐ 体育教育☐ 音楽教育☐ 学校保健☒ ICT 活用☐ キャリア教育☐ ESD☐ その他(自由記入)

2. 事業名称、事業目的及び概要等

事業名称(30 字程度)	
事業の目的(50 字程度)	A国におけるICTを活用した〇〇活動について、〇〇〇とその改善方法を明らかにする。
事業概要(150 字程度)	
相手国・地域	

3. 公募要領上で求められている要件への対応について

No.	必須要件	必須記載(150 字程度)
1	本プロジェクトを通じて、相手国・地域のどのようなニーズに応えますか。	A 国では、コロナ禍以降、学校現場で ICT を活用することが多くなったが、行政/学校現場/児童生徒は、〇〇や〇〇という状態になり、〇〇や〇〇などの課題を抱えている。さらには〇〇などの対応も必要となっている。
2	1 で記載したニーズに、どのような日本の特色ある取組をどのように用いる計画ですか。	日本の〇〇では、コロナ禍以降、〇〇に取り組んでおり、A国が抱える課題には〇〇の対処をとっている。また、以前は〇〇であったが、〇〇〇と改善された。また、〇〇〇〇〇。
3	相手国・地域において、どのようにビジビリティを高める工夫を行いますか。	A 国において、〇〇や〇〇にすることにより、ビジビリティを高める。また、〇〇〇〇〇。
4	資金面について、自立的に実施は可能ですか。	☒ はい / ☐ いいえ 資金源: ☐ 自己資金 ☐ 助成金()
5	相手国・地域において、教育関係当局・機関からの協力が得ら	☒ はい / ☐ いいえ 相手国・地域の教育関係当局・機関: A 国 B 学校

	れている、または得ようとしていますか。	上記機関との関係: ○○の際に○○したことがきっかけとなり、本プロジェクトにおいて既に協力が得られることが約束されている。
6	日本の教育の国際化など質的向上に資するよう、プロジェクトの成果をどの程度の規模を持って、どのように国内に還元する計画ですか。	計画全体を通じて、国内の○○校○件の参画を予定しており、○○担当教員の議論の場を用意している。また、A 国 B 学校での取組を通じ、日本の○○の意義役割を再認識する機会となることも期待している。取組の成果を論文にまとめ、○○学会の学会誌に投稿したり、全国大会で発表したりすることを計画している。これらの活動は○○名ほどを対象としている。
7	想定されている相手国・地域以外への事業展開については、どのような計画がありますか。	A 国以外については、D 国 E 地域において、○○を展開しており、2026 年には○○において○○を実施する計画である。

4. 事業内容・スケジュール

いつ、どのような活動を実施し、どのようなアウトプットが期待されるか、簡潔に説明してください(活動を 3～4 つ程度にまとめて記載)。

	活動内容	期待されるアウトプット
活動 ①	<u>日本、A 国の○○について比較する。</u> ・ 現地で使用されている○○に関連する○○を、日本と比較分析し記載内容の課題を明確にする。 ・ ○○について説明資料を作成し、B 校において○○を対象とした勉強会を開催する。	・ A 国の○○の現状、課題 が明らかになる。 ・ 説明資料○種類を作成する。 ・ 参加予定者○名において、対処すべき課題や方策に対する共通理解が得られる。
活動 ②	<u>A 国において○○を対象に、○○ワークショップを行う。</u> ・ A 国の○○に専門家を○名派遣する。 ・ ○名を対象に○○ワークショップを行う。	・ ワークショップ参加者○名が、○○に対する具体的な対処方法を身に付ける。
活動 ③	<u>A 国において○○を対象に、○○研修を行う。</u> ・ 活動②でワークショップに参加した○○が、○○地域において研修を行う。 ・ ○名を対象に○○研修を行う。	・ 研修参加者○名が、○○に対する○○を身に付け、○○となる。
活動 ④	<u>C 大学と共同で本事業の成果についてまとめる。</u> ・ 本プロジェクトの取組を論文にまとめる。 ・ ○○学会の学会誌に投稿する。 ・ ○○全国大会で発表する。	・ ○○学会の学会誌に論文が掲載される。 ・ ○○学会の全国大会で発表する。

スケジュール

	第二四半期 (7月～9月)	第三四半期 (10月～12月)	第四四半期 (1月～3月)
活動①	←→		
活動②		←→	
活動③			←→
活動④			←→

凡例: ◆ = 研修など数日の活動 ←→ = 教材作成など長期にわたる活動

5. 事業の規模

本プロジェクトへの参加人数	目標値(令和7年度中)
日本側の教員、職員、指導者および学生・生徒・児童・園児の数(人)	200
相手国側の教員、職員、指導者および学生・生徒・児童・園児の数(人)	300

6. 事業の実施体制

連携する他の機関とどのような役割・責任分担で実施するのか、簡潔に説明してください(150字程度)。

全体の企画、実施管理については、申請主体である〇〇が行う。〇〇法人〇〇学校は、4.実施内容・スケジュールに記載の活動②の〇〇に〇〇の専門家〇名を派遣する。また、活動③に記載の〇〇研修の内容等についても〇〇法人〇〇学校が主担当で作成する。〇〇法人〇〇支局は A 国 C 大学との関係が構築されているため、活動④の C 大学との取組について中核役として計画を進める。	
日本側連携機関	〇〇法人〇〇学校
相手国側連携機関	〇〇法人〇〇支局、C 大学

7. 過去の実績

本プロジェクトの実施に資する実績について簡潔に説明してください。過去に EDU-Port ニッポンで採択された実績がある場合は必ず記載ください。

実績の概要(100字程度)	本プロジェクトにどう活かしますか(100字程度)
〇〇年度 JICA 草の根支援事業「〇〇における〇〇プロジェクト」に採択され、〇〇を実施している。このプロジェクトは〇〇において、〇〇の課題に対応するものである。	JICA 草の根事業としては、〇〇に取り組んでいたが、本プロジェクトでは、〇〇に取り組む計画である。草の根事業では、〇〇の方法をとっていたが、本プロジェクトでもその経験を活かして、〇〇に取り組みたい。

8. その他(任意記載)

1.～6. で記載しきれなかった事項がある場合は、記載してください(200字程度)

--

9. プロジェクト終了後の EDU-Port ニッポンへの協力

※プロジェクト終了後も、EDU-Portニッポン事業改善のためのフォローアップ調査や、セミナー等でのグッド・プラクティスの共有にご協力をお願いしております。同意いただける場合、下記ボックスにチェックをお願いします。

☒ 事業終了後も、フォローアップ調査やセミナー等での発表に協力する。